

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		唐津市立馬渡小中学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である				
1 前年度 評価結果の概要		・全職員の共通理解のもと一人一回の公開授業を行うことで研鑽を深め、環境整備、授業の構造化等の教育のUD化についての校内研究を推進できた。本年度に培った取組を来年度も継続して取り組んでいく。 ・心の教育について保護者、児童生徒とともに高い評価を受けた。引き続き心の教育、児童生徒の良さ見つけの取り組みを進めていく。 ・他の児童生徒との意見交流をする時間を設けてはいるものの、その時間が児童生徒の資質・能力向上に結びついているとはいづらい。適切な手段で協働的な学習を仕組むための研究が必要である。						
2 学校教育目標		見つけよう自分らしさ、認めよう仲間の良さ、高めよう馬渡の力 ～ 自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に ～						
3 本年度の重点目標		①学力の向上）協働的な学びを通して、自分の考えを持ち、学習内容への理解と関心を深め、伝える意欲の高まりを目指す。 ②心の教育）人権・同和教育や道徳教育を柱にしたUD教育の充実（児童生徒対応力の向上） ③健康・体づくり）生活実態調査をもとにした家庭・保護者との連携 ④業務改善）業務の効率化、きめ細かな指導の充実 ⑤小中連携）小中一貫教育による開発的生徒指導の実践（出番―役割―承認）						
4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価			学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○児童生徒が主体的な学習を促すための単元づくり	○単元の目標を見据えることで、自身で目標達成のために何をすべきか考え、努力することができたと答える児童生徒の割合80%以上。	A	・全職員が研究授業を行い、児童生徒が主体的な学習を行うための手立てに取り組むことができた。また、児童生徒は目的意識をもって学習に取り組むことができた。	A		・単元のゴールを設定するのは、子ども達にとっても取り組みやすいはずだ。絶対評価を行っているが、評定は学校毎に同じ基準を持っているのだろうか。	学習文化部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒75%以上 ○担任が、道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。	A	・道徳の授業を中心に心の教育を実施する。 ・「唐津市教育の日」に、全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者や地域の参加型の授業を実施する。	A		・良いことだと思う。今の時代には必要なことなので、継続して欲しい。	児童生徒育成部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上。 ○生徒会を中心として、人権活動を年1回以上行う。	A	・職員会議で情報交換を行う。 ・いじめの発覚または疑われる事案発生直後、いじめ対策委員会を開催する。 ・人権週間を設け、人権集会を開催する。	A		・いじめの発覚または疑われる事案発生直後、担任と管理職が情報共有をし、職員会議で全職員に情報交換を行った。組織的対応ができていると回答した教員の割合は90%であった。 ・人権週間を設け、人権集会を行い、保護者とともに考える機会を設けた。	児童生徒育成部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	A	・夢や目標について目標の樹やいいねカード、夢プレゼン、マナー検定を通し、自ら将来の夢や目標について考えさせる時間を設ける。	A		・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒93%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒が100%であった。	児童生徒育成部
	○自分や友達の良さを見つけ、それを発表する活動。	○自分や友達の良さを認める肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	A	・自分や友達の良さを見つけ、発表する活動をクラスの中で行い、徐々に発表の場を学校全体に広げていく。	A		・自分や友達の良さを認める肯定的な回答をした児童生徒86%であった。	児童生徒育成部
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②規則正しい生活を送っている児童生90%以上 ④児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	A	・1週間に1回の合同レクリエーションを全小学生で実施する。また、小中学生全員での合同レクリエーションを月1回実施する。運動部活動を平日に4日、休日に1日実施する。 ②学校生活アンケートを月に1回実施する。 ④安全指導を月に1回実施する。	A		・1日60分以上体を動かしている、規則正しい生活習慣が身についていると答えた児童生徒は共に86%であった。 ・本年度の児童生徒の交通事故は0であった。	保体部
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒90%以上 ○児童生徒の朝食摂食率80%	A	○給食便りや給食集会で食事に関する啓発活動を行う。 ○朝食摂取の啓発週間を設ける。	A	・「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒93%であった。 ・規則正しい生活を送っていると答えた児童生徒は86%であった。	保体部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・協働による業務を推進する。 ・定時退勤日、部活動休養日を確実に実施する。	C	・小中学校各主任が打合せ、役割分担等を行い、業務に取り組むことができていた。 ・時間外在校が45時間を超えた回数が21回（21回/201日×職員15名≒16%）であった。	・部活が原因なら仕方ないが、児童生徒数が少ないのでみんなでやりくりすれば45時間を超えることはないのではないか。	管理職
	○校務用端末やタブレットPCを活用した業務効率の改善や教育の個別最適化の推進	○意識調査において、ICTを授業や評価に活用していると回答する教員85%以上	A	・ICTを効率的・効果的に活用するための研修を行う。	A	・全ての職員及び小学校中学年以上児童生徒が必要に応じて電子黒板やタブレット等を活用して授業、学習している割合が90%であった。	・タブレットを使った学習は以前にはなかった。子ども達がパソコン等を使って学習をしているのが時代に沿っている。	管理職
●特別支援教育の充実	○ユニバーサルデザインの視点にたった教室環境づくり及び授業実践の継続	○ユニバーサルデザインの視点にたった授業実践を受けた児童生徒のうち、「授業が分かりやすくなった」と答える児童生徒の割合80%以上	A	・教室環境の刺激物の撤去や1単位時間の学習過程の提示を行う。	A	・掲示物が前になかったり、めあてやまとめを囲む枠の色を全校統一することで、授業が受けやすくなったと答えた児童生徒は100%であった。枠囲み等職習慣化されていない様子も見られた。	・前面に掲示物等がないのは、よそ見をしがちな子でも授業に集中できそう。	学習文化部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者		
重点取組			具体的取組	最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○連携(小中・地域)	○小中学校職員の協働による教育実践	○中学校教員による授業や学活の時間等を好意的に受け止める児童の割合が80%以上を維持する。	A	・中間アンケートで、乗り入れ授業について好意的に受け止める児童の割合が100%から66%に減少したが、「とてもそう思う」と答えた児童は、33%から66%に増えた。 ・小学校副担任(中学校教員)が、授業だけでなく休み時間など、関わりをもって児童と接している。	A		・いいことだ。複式での学習を解消できたことでより学習の効果があると思う。	学習文化部
	○島の様々な資源を活用した教育活動の実践	○学校行事や授業への島民の参観や参加、ゲストティーチャーとしての参加回数が年に20回以上	A	・学校だよりや、口コミで行事前に告知を行い、授業参観に来てもらう。 ・島民に、ゲストティーチャーや授業の参加者としての来校を促す。	A	・全戸配布や島内放送等を行い、参加を促すことで、多くの参観者を募ることができた。 ・総合的な学習や干物体験等、ゲストティーチャーを含む参観や参加の回数は20回を超えた。	・中間評価時に10回以上で間に合うかと思ったが、ギターのゲストティーチャーがその後来ることや決まった行事があるのであれば納得だった。	学習文化部 保体部
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望		・業務の更なる効率化を図り、職員の時間外在校等時間45時間以内を厳守するための手立てを取り、意識の向上を図っていく。 ・目的意識をもって学習に取り組む児童生徒を育むことができた。今後は自ら学びを調整する力を高められるような手立てや学習過程について検討を進めている。 ・自分や友達の良さ、自分の夢について語ることができる児童生徒の育成を進めることができた。人権や愛郷心等、更なる心の教育を進めていく。						